

愛媛県土地開発公社定款

第1章

(目的)

第1条 この土地開発公社は、公共用地、公用地等の取得、管理、処分等を行うことにより、地域の秩序ある整備と県民福祉の増進に寄与することを目的とする。

(名称)

第2条 この土地開発公社は、愛媛県土地開発公社と称する。

(設立団体)

第3条 この土地開発公社の設立団体は、愛媛県とする。

(事務所の所在地)

第4条 この土地開発公社は、事務所を愛媛県松山市に置く。

(公告の方法)

第5条 この土地開発公社の公告は、愛媛県報に掲載して行う。

第2章 役員及び職員並びに理事会

第1節 役員及び職員

(役員)

第6条 この土地開発公社に、次の役員を置く。

- (1) 理事9名以内(うち理事長1名、副理事長1名、専務理事1名)
- (2) 監事2名以内

2 理事のうち、2名以内は常任とすることができる。

(役員の仕事及び権限)

第7条 理事長は、この土地開発公社を代表し、その業務を総理する。

2 副理事長は、理事長を補佐し、この土地開発公社の業務を掌理するとともに理事長に事故あるときは、その職務を代理し、理事長が欠けたときは、その職務を行う。

3 専務理事は、この土地開発公社の業務を掌理するとともに、理事長及び副理事長に事故あるときは、その職務を代理し、理事長及び副理事長が欠けたときは、その職務を行う。

4 理事は、規程の定めるところにより、この土地開発公社の業務を掌理する。

5 監事は、民法第59条の職務を行う。

(役員の仕事)

第8条 理事及び監事は、愛媛県知事が任命する。

2 理事長は、理事の互選により決定する。

3 副理事長、専務理事及び常任の理事は、理事長が指名する。

(役員任期)

第9条 役員任期は、2年とする。ただし、補欠の役員任期は、前任者の残任期間とする。

2 役員は再任されることができる。

(役員兼任の禁止)

第10条 理事長は監事を、監事は理事を兼ねることができない。

(職員任命)

第11条 職員は、理事長が任命する。

(兼職禁止)

第12条 常任の役員及び職員は、営利を目的とする団体の役員となり、又はみずから営利事業に従事してはならない。ただし、任命権者が承認した場合は、この限りでない。

第2節 理事会

(設置及び構成)

第13条 この土地開発公社に、理事会を置く。

2 理事会は、理事をもって構成する。

(召集)

第14条 理事会は、理事長が必要と認めるとき、又は理事若しくは監事から会議の目的たる事項を記載した書面を付して要求があったときに、理事長が召集する。

(理事会の議事)

第15条 理事会の議長は、理事長をもってこれにあてる。

2 理事会は、理事の過半数が出席しなければ開くことができない。

3 理事会の議事は、この定款に特別の定めがある場合のほか、出席理事の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

4 監事は、理事会に出席して意見を述べることができる。

(代理表決等)

第16条 理事は、やむを得ない理由のため理事会に出席できない場合は、あらかじめ理事長の承認を得た代理人に表決を委任することができる。

2 理事長は、緊急の必要により、理事会を開催するいとまがないときは、持ち廻りの方法により、各理事の表決を求めることができる。

3 前項の場合において、前条の規定の適用については、表決に参加した者を出席した者とみなす。

(理事会の議決事項)

第17条 次に掲げる事項は、理事会の議決を経なければならない。

(1) 定款の変更

- (2) 業務方法書の制定又は変更
 - (3) 毎事業年度の予算、事業計画及び資金計画の決定又は変更
 - (4) 毎事業年度の財産目録、貸借対照表、損益計算書及び事業報告書
 - (5) 規程の制定又は改正若しくは廃止
 - (6) 規程により理事会の権限に属せしめられた事項
 - (7) その他、この土地開発公社の運営上理事長が重要と認める事項
- 2 前項第1号及び第2号に掲げる事項については、出席理事の3分の2以上の決するところによる。

第3章 業務及びその執行

(業務の範囲)

第18条 この土地開発公社は、第1条の目的を達成するため次の事業を行う。

(1) 次に掲げる土地の取得、造成その他の管理及び処分を行うこと。

イ 公有地の拡大の推進に関する法律第4条第1項又は第5条第1項に規定する土地

ロ 道路、公園、緑地その他の公共施設又は公用施設の用に供する土地

ハ 公営企業の用に供する土地

ニ 都市計画法第4条第7項に規定する市街地開発事業の用に供する土地

ホ 観光施設事業の用に供する土地

ヘ 当該地域の自然環境を保全することが特に必要な土地

ト 史跡、名勝又は天然記念物の保護又は管理のために必要な土地

チ 航空機の騒音により生ずる障害を防止し、又は軽減するために特に必要な土地

(2) 住宅用地の造成事業並びに港湾整備事業(埋立事業に限る。)並びに地域開発のためにする臨海工業用地、内陸工業用地及び流通業務団地の造成事業を行うこと。

(3) 前2号の業務に附帯する業務を行うこと。

2 前項の業務のほか、当該業務の遂行に支障のない範囲内において、次に掲げる業務を行う。

(1) 前項第1号の土地の造成(一段の土地に係るものに限る。)又は同項第2号の事業の実施と併せて整備されるべき公共施設又は公用施設の整備で地方公共団体の委託に基づくもの及び当該業務に附帯する業務を行うこと。

(2) 国、地方公共団体その他公共的団体の委託に基づき、土地の取得のあつせん、調査、測量その他これらに類する業務を行うこと。

(業務方法書)

第19条 この土地開発公社の業務の執行に関し必要な事項は、この定款に定めるも

ののほか、業務方法書の定めるところによる。

第4章 資産及び会計

(資産)

第20条 この土地開発公社の資産は、基本財産及び運用財産とする。

2 この土地開発公社の基本財産の額は、3千万円とする。

3 基本財産は、安全かつ確実な方法により管理するものとし、これをとりくずさない。

(事業年度)

第21条 この土地開発公社の事業年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(予算及び事業計画等)

第22条 この土地開発公社は、毎事業年度、予算、事業計画及び資金計画を作成し、当該事業年度の開始前に愛媛県知事の承認を受けるものとする。これを変更しようとするときも同様とする。

(財務諸表)

第23条 この土地開発公社は、毎事業年度の終了後2ヶ月以内に財産目録、貸借対照表、損益計算書及び事業報告書を作成し、監事の監査を経て、愛媛県知事に提出するものとする。

(利益及び損失の処理)

第24条 この土地開発公社は、毎事業年度の損益計算上利益を生じたときは、前事業年度から繰り越した損失をうめ、なお残余があるときは、その残余の額は、準備金として整理する。

2 この土地開発公社は、毎事業年度の損益計算上損失を生じたときは、前項の規定による準備金を減額して整理し、なお不足があるときは、その不足額は繰越欠損金として整理する。

(余裕金の運用)

第25条 この土地開発公社は、次の方法によるほか、業務上の運用をしない。

(1) 国債又は地方債その他主務大臣の指定する有価証券の取得

(2) 郵便貯金又は銀行その他主務大臣の指定する金融機関への預金

(予算の弾力運用)

第26条 理事長は、第17条の規定にかかわらず、業務量の増加により業務のため直接必要な経費に不足を生じたときは、愛媛県知事の承認を経て、当該業務量の増加により増加する収入に相当する金額を当該経費に使用することができる。この場合においては、理事長は、次の理事会においてその旨を報告しなければならない。

第5章 雑 則

(解散)

第27条 この土地開発公社は、理事会で出席理事の4分の3以上の同意を得たうえ、愛媛県議会の議決を経て、主務大臣の認可を受けたときに解散する。

2 この土地開発公社は、解散した場合において、債務を弁済してなお残余財産があるときは、当該残余財産は、愛媛県に帰属する。

(規程への委任)

第28条 この土地開発公社の運営に関して必要な事項は、この定款及び業務方法書に定めるもののほか、規程の定めるところによる。

附 則

(施行期日)

1 この定款は、昭和48年6月1日から施行する。

(最初の役員任期)

2 この土地開発公社の最初の役員任期は、第9条の規定にかかわらず、愛媛県知事が定めるところによる。

附 則(昭和48年9月20日)

この一部変更は、昭和48年9月21日から施行する。

附 則

この定款は、平成元年3月20日から施行する。